

ロシア農業改革と農業従事者

外国語学部ロシア語学科3年

A0255011 伊賀 真文

現在、ロシアは石油価格の高値水準に支えられ、経済成長を遂げているといわれている。実際、(表1)などの統計数字だけを見れば確かに経済は成長しているようだ。

(表1)ロシア経済指標、GDP対前年比(%)

	98年	99年	00年	01年	02年	03年
GDP	-5.3	6.4	10	5.1	4.7	7.3

(出所)ロシア国家統計委員会

しかし、ロシアの産業構造は単純であるといわれ、資源に頼る産業の原始化さえ起こっているように思える。各産業別に見ていくとまだまだ多くの問題を抱えているのだ。この論文では、その中でも農業の分野について着目したい。

ロシア農業は多くの問題を抱えている。ソ連時代の負の遺産とも言える土地制度やコルホーズ、ソフホーズといった国営・集団で行われた農業制度など、農業の発展を妨げる要素が多い。土地改革でいえば、今まで全くの国有地であった土地をどのように私有化していくのか、農業制度でいえば、効率が悪かった集団農業をどのように改革していくのかなど、問題は山積している。また、国民の「意識」の面でも大いに問題を抱えているといえる。ソ連時代の効率の悪い、このような制度を当たり前のものとして捉えていたロシア国民の意識は、ソ連が崩壊してもすぐに切り替わるものではない。コルホーズ・ソフホーズが相変わらず残り、農民経営がなかなか創出されないなどの問題は、国民の意識が大きく関わっている。このような状況が深刻であるのは、この「意識」によって国民は自分達で効率のよい農業の方法を模索するなどといった、創意工夫をするのを忘れてしまっていることではないだろうか。また、さらに悪いことには農産物価格自由化による、交易条件の悪化や、賃金未払いなどの問題も顕著となっていることだ。交易条件の悪化や、賃金未払いによってさらに働く意欲まで奪われてしまっているように思える。

まず、社会主義ソ連期の農業とその問題点を指摘する。次にそれをふまえて、ソ連崩壊後、ロシアで農業改革がどのように行われ、それが農業企業や農民経営創出にどのような影響を与えたのかをみていく。そして、そのとき農業従事者はどのような状況におかれ、どのような困難を抱えていたのかを書きたい。

【主要参考文献】

野部公一『CIS 農業改革研究序説』2003年10月

溝端佐登史ほか『市場経済移行論』2002年7月

山村理人『ロシアの土地改革1989～1996年』1997年2月

中津孝司『現代ロシアの市場経済 - その特殊性と異質性 - 』2000年

外務省ホームページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/russia/shihyou.html>